

科 目 名

事前・事後指導 Guidance and Aftercare for Teaching Practics

3年後期～4年前期 1単位 選択

古 閑 登世美

概 要

教育実習は大学の講義や演習で学習してきた教職科目や専門教科の知識や技能を実地で検証しながら、その深化を図る場であり、将来教師となるための訓練を積む場である。実地に生徒たちに接し学習指導や生活指導、部活動等を通して彼等を肌で理解し、更には教師の仕事や行動、学校の環境等を教師の視点から改めて理解しなおすことができる。この体験を通して教師の苦勞と共に教師の魅力を実感できる。

しかし、そこでは、実習生は生徒たちから完成された1人前の教師として迎えらる。従って、そこでは学生としての甘えは許されず、教師としての姿勢が要求される。

本講座では、教育実習生に教育実習の意義、実習内容と方法、学習指導案の作成等を中心に展開し、実習生が自信と希望を持って実習に臨めるよう具体的に指導する。

実習後には、実習の総括をし、さらなる向上を図るため事後指導を実施する。

授業計画

- 第1回 教育実習の意義
- 第2回 教育実習の過年度までの反省
- 第3回 当面している教育時事①
- 第4回 当面している教育時事②
- 第5回 自己紹介の実際①（全員に自己紹介をさせる）
- 第6回 自己紹介の実際②（全員に自己紹介をさせる）
- 第7回 指導案の書き方①（全員に指導案を作成させる）
- 第8回 指導案の書き方②（全員の指導案を添削し、完成させる）
- 第9回 模擬授業①（全員に模擬授業をさせ、相互評価をさせる）
- 第10回 模擬授業②（全員に模擬授業をさせ、相互評価をさせる）
- 第11回 模擬授業③（全員に模擬授業をさせ、相互評価をさせる）
- 第12回 外部講師による講話①（教育現場の先生方の生の講話を聞く）
- 第13回 外部講師による講話②（教育現場の先生方の生の講話を聞く）
- 第14回 直前指導（模擬授業の模範を実施し、実習中の諸注意をする）
- 第15回 事後指導（実習後の感想文、アンケート、お礼状の書き方）

授業方法

テキストや資料を使った講義及び演習。特に、演習を中心に授業を展開する。

学習到達度の評価

- ① 各段階で全員の参加を促す。（個人及びグループでの作業を課す。）
- ② 毎回個人レポートを提出させ、学習到達度の確認と深化を図る。

評価方法

各回の取組の状況及びレポート等。

教 材

諸資料等（先輩たちの感想文、研究授業学習指導案、学習指導要領等）